

数 学 ②

(数1～数9ページ)

※ 国語の問題は、本冊子の右開きのページにあります。

注 意

1. 試験開始の合図があるまで、問題用紙を開いてはいけません。
2. この問題用紙には、次の2科目の問題が収められています。
数 学 ② (数1～数9ページ) 「数学Ⅰ・数学Ⅱ・数学Ⅲ・数学A・数学B」
国 語 (国1～国13ページ)
3. 2科目の中から1科目を選択し、解答は解答用紙にマークしなさい。解答用紙は2科目共通です。解答用紙にはマーク式解答欄の番号が **1** ～ **75** までありますが、使用しない解答欄も含まれています。
4. 解答用紙に受験番号・氏名・選択科目を記入しなさい。
 受験番号と選択科目は、下記の「受験番号欄記入例」「選択科目欄記入例」に従って正確にマークしなさい。
5. 試験時間は **60分** です。
6. 試験開始後、問題用紙に不備(ページのふぞろい・印刷不鮮明など)があったら申し出なさい。
7. 問題の内容についての質問には、いっさい応じられません。
8. 中途退出は認めません。試験終了後、この問題用紙は持ち帰りなさい。

受験番号欄記入例・選択科目欄記入例

(アルファベットと数字の位置に注意してマークしなさい)
(アルファベットのI・O・Qはありません)


受 験 番 号 欄				
H	5	7	0	9
A	0	0	●	0
B	1	1	1	1
C	2	2	2	2
D	3	3	3	3
E	4	4	4	4
F	●	5	5	5
G	6	6	6	6
●	7	●	7	7
J	8	8	8	8
K	9	9	9	●
L				
M				
N				
P				
Q				

「数学②」を選択した場合

選 択 科 目 欄	
○	国 語
●	数 学 ②

↑
解答する1科目に
必ずマークしなさい

マーク式解答欄記入上の注意

1. 解答は、HBの黒鉛筆を使用して丁寧にマークしなさい。
 《マーク例》
 良い例 ●
 悪い例 
2. 訂正する場合は、プラスチック消しゴムで、きれいにマークを消し取りなさい。
3. 所定の記入欄以外には、何も記入してはいけません。
4. 解答用紙を汚したり、折り曲げたりしてはいけません。

数 学②

解答にあたっての注意

次の ~ の1つ1つには、0から9までの数字または負の符号-のいずれかが入る。それらを解答用紙の ~ にマークして答えなさい。ただし、分数はすべて既約分数で答え、負の分数のときは符号を分子につけなさい。また、根号の中の数は最も小さい自然数を用いて答えなさい。

I

- (1) a, b, c を整数とする。2次関数 $y = ax^2 + bx + c$ のグラフが x 軸に接し、2点 $(0, -2), (3, -8)$ を通るとき、 $(a, b, c) = (\text{ }, \text{}, \text{ })$ である。
- (2) 整式 $f(x)$ を $x^2 - 6x + 5$ で割ったときの余りが $2x - 3$ であるとき、 $\{f(x)\}^2 + f(x)$ を $x^2 - 6x + 5$ で割ったときの余りは $x -$ である。
- (3) $\left(\frac{3}{5}\right)^{30}$ を小数で表したとき、初めて0でない数字が現れるのは小数第 位であり、その数字は である。ただし、 $\log_{10} 2 = 0.3010, \log_{10} 3 = 0.4771$ とする。
- (4) $\left(\frac{1 + \sqrt{3}i}{1 + i}\right)^{24} = \text{ }$ である。ただし、 i は虚数単位とする。

計算用紙

Ⅱ 1, 2, 3, 3, 4, 5 の 6 個の数字から 4 個を並べて 4 桁の自然数を作る。

(1) 各桁の数字がすべて異なるものは

16	17	18
----	----	----

 個ある。

(2) 3 が 2 個含まれるものは

19	20
----	----

 個ある。

(3) 3 の倍数は

21	22
----	----

 個ある。

計算用紙

Ⅲ AB = 5, AC = 4 である三角形 ABC において, $\angle BAC = 3\theta$ とおくと, $\cos \theta = \frac{4}{5}$ である。
 辺 BC 上に点 P を $\angle BAP = \theta$ となるようにとる。

(1) $\sin \theta = \frac{\boxed{23}}{\boxed{24}}$ であり, $\sin 3\theta = \frac{\boxed{25} \ \boxed{26} \ \boxed{27}}{\boxed{28} \ \boxed{29} \ \boxed{30}}$ である。

(2) 三角形 ABC の面積は $\frac{\boxed{31} \ \boxed{32} \ \boxed{33}}{\boxed{34} \ \boxed{35}}$ である。

(3) 線分 AP の長さは $\frac{\boxed{36} \ \boxed{37}}{\boxed{38} \ \boxed{39}}$ である。

計算用紙

IV O を原点とする座標空間において、点 A(4, -2, 1) を通りベクトル $\vec{u} = (2, 1, 0)$ に平行な直線を ℓ 、点 B(3, -5, -2) を通りベクトル $\vec{v} = (3, 0, -1)$ に平行な直線を m とする。 ℓ 上の点 P、 m 上の点 Q をとる。

(1) 実数 s, t を用いて、 $\vec{AP} = s\vec{u}$ 、 $\vec{BQ} = t\vec{v}$ と表すと、

$$\vec{OP} = (\boxed{40}s + \boxed{41}, s - \boxed{42}, 1),$$

$$\vec{OQ} = (\boxed{43}t + \boxed{44}, -5, \boxed{45}t - \boxed{46})$$

である。

(2) 直線 PQ が、2 直線 ℓ, m の両方に直交するとき、

$$\vec{PQ} = \left(\frac{\boxed{47} \boxed{48}}{\boxed{49}}, \frac{\boxed{50}}{\boxed{51}}, \frac{\boxed{52} \boxed{53}}{\boxed{54}} \right)$$

である。

計算用紙

本問をこつち解問のとき

V 関数 $f(x) = 6\sqrt{6x - x^2}$ ($0 \leq x \leq 6$), $g(x) = \frac{1}{3}xf(x)$ を考える。

(1) $f(x)$ の最大値は

55	56
----	----

 である。

(2) $g(x)$ の最大値は

57	58
----	----

 /

59

 $\sqrt{\text{table border="1" style="display: inline-table; vertical-align: middle;">| |
| --- |
| 60 |
}}$ である。

(3) 2 曲線 $y = f(x)$ と $y = g(x)$ で囲まれた 2 つの部分の面積の和は

61	62
----	----

 である。

数学の問題はここまでです

計算用紙

国 語

(国 1～国 13 ページ)

※数学②の問題は、本冊子の左開きのページにあります。

注意

- 1 試験開始の合図があるまで、問題用紙を開いてはいけません。
- 2 この問題用紙には、次の二科目の問題が収められています。
国 語 (国 1～国 13 ページ)
数 学 ② (数 1～数 9 ページ) 「数学Ⅰ・数学Ⅱ・数学Ⅲ・数学Ⅳ・数学Ⅴ・数学Ⅵ・数学Ⅶ・数学Ⅷ・数学Ⅸ・数学Ⅹ・数学Ⅺ・数学Ⅻ」
- 3 二科目の中から一科目を選択し、解答は解答用紙にマークしなさい。
解答用紙は、二科目共通です。
解答用紙にはマーク式解答欄の番号が **1** ～ **75** までありますが、使用しない解答欄も含まれています。
- 4 解答用紙に受験番号・氏名・選択科目を記入しなさい。
受験番号と選択科目は、下記の「受験番号欄記入例」「選択科目欄記入例」に従って正確にマークしなさい。
- 5 試験時間は **六〇分** です。
- 6 試験開始後、問題用紙に不備(ページのふぞろい・印刷不鮮明など)があったら申し出なさい。
- 7 問題の内容についての質問には、いっさい応じられません。
- 8 中途退出は認めません。試験終了後、この問題用紙は持ち帰りなさい。

受験番号欄記入例・選択科目欄記入例

受 験 番 号 欄				
受	5	7	0	9
(A)	○	○	●	○
(B)	○	○	○	○
(C)	○	○	○	○
(D)	○	○	○	○
(E)	○	○	○	○
(F)	○	○	○	○
(G)	○	○	○	○
(H)	○	○	○	○
(I)	○	○	○	○
(J)	○	○	○	○
(K)	○	○	○	○
(L)	○	○	○	○
(M)	○	○	○	○
(N)	○	○	○	○
(O)	○	○	○	○
(P)	○	○	○	○
(Q)	○	○	○	○

(アルファベットと数字の位置に注意してマークしなさい)
(アルファベットのI・O・Qはありません)

「国語」を選択した場合

選 択 科 目 欄		
●	国	語
○	数	学 ②

↑
解答する1科目に
必ずマークしなさい

マーク式解答欄記入上の注意

1. 解答は、HBの黒鉛筆を使用して丁寧にマークしなさい。
《マーク例》
良い例 ●
悪い例 ⊕ ⊙ ⊗ ⊖ ○
2. 訂正する場合は、プラスチック消しゴムで、きれいにマークを消し取りなさい。
3. 所定の記入欄以外には、何も記入してはいけません。
4. 解答用紙を汚したり、折り曲げたりしてはいけません。

I 次の文章を読み、後の問いに答えなさい。

言葉使いというものは単なる口癖であるに止まらず我々の考え方に大きな影響を与える場合が少なくない。政府が弱腰だ、オウボウだ、けしからん、などと言っているうちに、政府が人格化されてきて何か巨大な人間のように感じられてくる。時間がある、ない、時間の配分、などと言いつつ、それらと同様に、近頃流行になった、コンピュータが考える、計算する、記憶する、といった言い廻しがコンピュータの人格化に誘う危険がある。

【A】その一方で今度は脳についての同様な言い廻しが脳の人格化を招きつつある。そして本当の人間そのものの影が薄くなってしまうのではないかとキグすらできてきている。そこで一旦踏みとどまってコンピュータと脳についての言葉使いを反省してみることにしよう。

コンピュータが例えば複雑な計算をする、それも人間の到底及ばぬ速さと正確さでやることは珍しくもない事実である。【B】それに疑いをかけようというのではない。しかし私が問題だと思うのは、コンピュータが計算するという時の「計算する」という言葉の意味なのである。

例えば、コンピュータに一〇〇桁をこえる二つの数の掛算をやらせると立ち所に正確な答を打ち出すだろう。簡単に言えば、計算問題をインプットすればその正しい答をアウトプットするのである。そしてこのように、計算問題を与えると正しく解答する、ということこそコンピュータは「計算する」と言っているのである。【C】コンピュータが打ち出す答は生身の人間が出す正答と何の区別もない。手すきの紙と機械すきの紙の間には歴然とした違いがある。本当の手打ちそばと工場製のそばの間には明らかに味の違いがあるだろう。【D】しかし、計算問題で人間が計算した答とコンピュータが打ち出した答との間には全く何の違いもないのだから、人間が計算する、と言うのなら当然「コンピュータが計算する」といっていい

わけである。

しかし、このようにコンピュータについては容易に「計算する」と言われるのに、算盤についてはそう言いにくいのはなぜだろうか。それは算盤はコンピュータ程には「自動的」でないことによると思われる。進歩したコンピュータは計算の問題を光学的、または音響的に「読み取る」だろうが算盤は人間が指で珠を動かさねばならない。また計算結果もコンピュータは自動的にプリントするのに対して算盤は人間が「読み取る」必要がある。こうして、コンピュータがいれば全自動計算機械であるのに対して算盤は高々の所半自動装置なのである。そのため、コンピュータは人間と肩を並べて「計算する」といえるのに、算盤は単に人間の計算の補助道具であってそれ自体が独立に「計算する」などとは到底いえない、こうわれわれは感じているのである。だから、算盤の入力部分をできるだけ自動化し、出力部分も自動的表示にした卓上計算機に対しては、われわれは「計算する」ということにテイコウを感じないのである。

このようにしてコンピュータが「計算する」という言い方を許す方式を「機能的同類化」と呼んでおこう。それは「計算する」という機能からみて、またその機能に限ってみるならば、コンピュータを人間と同類にあつかってかまわない、ということだからである。

この機能的同類化の核心は、()、ということである。問題提示→解答表示という作業遂行ということだけで同類化が許されるのであって、それ以外のいかなる同類性も意味しないのである。人間が鉛筆をなめなめ頭をひねって足し算や掛け算をするときの「経験」に類したことはコンピュータには一切カイクであることはいうまでもない。コンピュータには「経験」などがあるはずもない。あるのはただおびただしいLSIを含んでいる電気回路の作動だけである。このことに気がつかず、あるいは忘却して、コンピュータが人間の経験に何程か類似した経験をもっているという意味で「コンピュータが計算する」と言うとするればそ

れは明白な誤りである。この誤りを意識的に犯す人はいないだろう。しかし、コンピュータが「計算する」「記憶する」「判断する」といったことを無頓着に口にのぼせ、やがて習慣的に口がすべるようになる、無意識のうちこの誤りに誘い込まれる危険がなきにしもあらずなのである。この危険率は次に述べる脳についての言い廻しが増えることで一層増大する。

例えば私が何か計算をしているとき、私の脳は忙しく動いていることは疑いない。この脳の動きが何かの原因で止つたなら私の計算も停止するだろう。アルコールその他の薬物で脳の動きがボウガイされると私の計算はうまくいかないだろう。この脳の動きが具体的にはどんな動きなのかは現在なお正確に言えないにせよ、人間の知的活動には脳の動きが伴い、脳の動きが不可欠であることは現代の常識であろう。そしてこの状況から一つの誤解が生れてくる。私が計算をするとき、計算するのは如何にも私であるがそれは表面のことであつて実は私の脳が計算するのだ、という誤解である。この誤解が育つてゆくと、やがて、右脳が言語を理解する、左脳が空間認識をする、側頭葉が記憶する、といったたわごとを口走るまでになりかねない。それを防ぐために事の始めに戻つて事態を観察してみよう。

(中略)

日常の意味で私が「計算する」時に何が起つているか生理学的に観るならば、その中核となるのは私の脳に生じている過程であろうことには間違いない。この脳で生じている過程の精細は現在もお不明であるだろうがそれを「脳過程(計算)」と表わすことにしておこう。同様に、「脳過程(判断)」とか「脳過程(記憶)」とかが考えられることはいうまでもない。すると、「私が計算する」という命題が表現している事態を生理学的に表現するならば「(私の)脳に脳過程(計算)が生じている」ということになる。言い換えると、日常的には「私が計算する」ということはとりもなおさず即ち、「脳に脳過程(計算)が生じている」ということなのである。そしてこのことは生理学的研究が発見したことであるのは、「物が燃え

る」ということは即ち、「それが酸素と化合する」ということだと化学の研究が発見したのと同様である。したがって、燃焼とは実は酸化に他ならぬといわれるのと同様に、私が計算するとは実は脳過程(計算)が起きることに他ならないと考えられるのである。つまり、学問的研究によって得られた新知識に基づいた新しい表現で古い常識的表現を置き換えたのだ、と感じられるのである。だがたとえそうだとしても古い常識的表現を御用済みにして使い捨てにする必要はあるまい。むしろこの常識的表現と科学的表現を同一事態の二通りの異形表現だとみるべきではなからうか。それぞれの表現にはそれに適切な状況があつてその状況では他方の表現は場違いになるのである。例えば幼稚園やスーパーで科学的表現を使えば物笑いの種になる。「昨晚お向いのお宅が酸化しましてね」とか「ちゃんと脳過程(計算)を起すんですよ」とか。

このような日常的表現と科学的表現との関係を一般に「重ね描き」の關係と呼ぶことにする。例えば私が計算をするという一つの事態を一方は日常的な観察態度で日常的言葉を使って表現し、今一方は科学的観察態度で科学的用語を使って表現する。そしてこの二つの表現は共に同一の事態の描写として時間空間的に重なるものだからである。「奥歯が痛い」という日常表現には、奥歯の細菌による化膿、そこからの痛覚神経のパルス伝達、そこから二・三のシナプス(神経接合部)を経ての脳皮質神経細胞の興奮、といった科学描写が、奥歯の場所を始めとして空間的に、また痛みの始まりや強弱の時刻などの時間に重ねてなされる。何かを判断する、何かを憶い出す、といった日常描写にも同様に時間空間的に重ねて脳の中の生理学的描写がなされる。

しかし注意すべきは、この「重ね描き」の關係にあるのは日常描写と科学描写という二つの命題であつて、その命題の中の個々の単語ではないということである。ましてや、重ね描き關係にある二つの命題の一方の主語に他方の命題の述語を付けるなどということは決して許されることではな

い。もしそんなことをすれば全く意味不明なキメラ命題になってしまう
(キメラとは二つの動物を接合した化物的生物である)。

ところが、「脳が計算する」という命題はまさにそういったキメラ命題
に他ならない。

それは、「私が計算する」という日常表現の述語を、それに重ね描かれ
る「脳が脳過程(計算)が起きる」という科学命題の主語に付けた命題だ
からである。

(大森莊蔵『思考と論理』より)

*問題作成上の都合により、本文の一部に手を加えてある。

問一 傍線部 a、e を漢字表記に改めた場合、それと同じ漢字を傍線部で
用いるものを、次の各群の中からそれぞれ一つずつ選びなさい。

1 a 「オウボウ」

- ① オウチャクな態度をとる。
- ② 雪で車が立ちオウジョウする。
- ③ 好奇心がオウセイだ。
- ④ 悪口にオウシユウする。

2 b 「キグ」

- ① キチに富んだ会話を交わす。
- ② キシ回生のチャンスをかがう。
- ③ キトク状態に陥ってしまう。
- ④ 争いごとをキヒする。

3 c 「テイコウ」

- ① 激しいコウボウ戦が続く。
- ② コウバイのゆるやかな坂道を歩く。
- ③ 武力コウソウに巻き込まれる。
- ④ 身柄をコウソクされる。

4 d 「カイム」

- ① 取引をバイカイして利益を得る。
- ② 計画をすべてテツカイする。
- ③ ケイカイなりズムで踊る。
- ④ カイキン賞を目指してがんばる。

5 e 「ボウガイ」

- ① 雑音が気にサワる。
- ② 通行をサマタげる。
- ③ 行く手がハバまれる。
- ④ 差しツカえない返事をする。

問二 二重傍線部 X・Y について、その意味として最も適切なものを、次
の各群の中からそれぞれ一つずつ選びなさい。

6 X 「歴然とした」

- ① 筋道のはっきり通った
- ② 証明する必要のない
- ③ はっきりと明白な
- ④ 並べてみるとわかる

7 Y 「とりもなおさず」

- ① それがそのまま
- ② とりあえずは
- ③ 考えるまでもなく
- ④ それには及ばず

問三 次の一文の入る箇所として最も適切なものを、後の中から一つ選びなさい。

もちろんこの言い方は当然な言い方である。

8 ①【A】 ②【B】 ③【C】 ④【D】

問四 傍線部1「コンピュータについては容易に『計算する』と言われる」とあるが、なぜだと筆者は考えているのか、その説明として最も適切なものを、次の中から一つ選びなさい。

- 9 ① コンピュータは人間にとって身近な存在で、特に計算能力に関してはその速さと正確さが人間の能力をはるかに超えているから。
- ② 生身の人間が計算して出した結果とコンピュータが出した結果がまったく同じで、コンピュータは他の機械とは別格といえるから。
- ③ 人間が計算する際に用いる道具として、扱う人間自身の能力に左右される算盤と異なり、コンピュータは完全に自立しているから。
- ④ コンピュータは人間の補助がなくても自動的に計算することができ、その機能に限って人間と同類にあつかうことができるから。

問五 傍線部2の空欄に補う言葉として最も適切なものを、次の中から一つ選びなさい。

10 ① 同類化は「計算する」という機能に限っていいえることで

あつて他の機能ではないえない

② 同類化はただ機能の観点だけからであつて機能以外の点での同類化を一切拒否する

③ 同類化はコンピュータだけに当てはまることであつて他の機械はこれを拒絶する

④ 同類化は問題提示をして解決を示すことが条件であつて解決以外のことは許されない

問六 傍線部3「この状況から一つの誤解が生れてくる」とあるが、ここでの「誤解」とはどのように考えることなのか、その説明として最も適切なものを、次の中から一つ選びなさい。

- 11 ① 人間の脳の動きの詳細は正確にわからないのに、「計算する」という知的活動には脳が不可欠だと考えること。
- ② 「計算する」のは人間の身体全体で行われることなのに、脳の表面で行っているにすぎないと考えること。
- ③ 人間が「計算する」場合、脳には脳過程が生じているにすぎないのに、脳自身が計算しているのだと考えること。
- ④ 脳の機能は万能ではないのに、「計算する」ことを始める間のすべての知的活動を脳が司ると考えること。

問七 傍線部4「一般に『重ね描き』の関係と呼ぶことにする」とあるが、

「重ね描き」に関する説明として最も適切なものを、次の中から一つ選びなさい。

12

- ① 同一事態には常識的表現と科学的表現があり時間空間的に重なるが、科学的表現は古い常識的表現を新知識によって置き換えたもので、正確な表現だといえる。
- ② 学問的研究によって何かが発見されるたびに、常識的表現のうえに新しい知見による科学的表現が上書きされ、時間空間的な層が重なり厚くなっていく。
- ③ 日常描写と科学描写は同一の事態を重層的に捉えて表現するためのもので、観察態度として日常的であることと科学的であることが同時に求められている。
- ④ 一つの事態の描写として日常的言葉と科学的用語をそれぞれ用いた二通りの表現があり、時間空間的に重なるが、状況に応じた使い分けがなされている。

問八 本文の内容と合致するものを、次の中から一つ選びなさい。

13

- ① 人間の脳の代わりになる能力をもつコンピュータは、機能が多角化するにしたがい人格をもつと誤解されるようになった。
- ② コンピュータや脳に関するキメラ命題のような言いまわしは、それらを人格化して捉える誤りに陥らせるおそれがある。
- ③ 不適切な言葉使いは考え方に影響を与え誤解を招くことがあるので、科学的用語は意味を誤らないよう正確に用いるべきだ。
- ④ 言葉使いの乱れとともに、日常描写と科学描写という二つの命題が正しく捉えられず、物事の真実を見極められなくなった。

II 次の文章を読み、後の問いに答えなさい。

「もうそれ以上の着物は織れないかもしれない」と、はじめて着物らしい着物を織った時、母に言われた。ひとは一ばんはじめの作品ですべてわかる、とも言われた。

その時はさして気にもとめなかった。併し、今、¹四十年近く経ってみてやはりそのことを思う。もう少し曲折のある複雑な意味で。それ以上とか、以下とかいう問題ではなく、もし人に、一生の間にする仕事の範疇とか、内容とか、分量とか、そのすべてを含んで、やるべき仕事というものがあるとすれば、その出発点において帰着点がどこかにさだめられているのではないだろうか。勿論本人は全く無意識でしていることではあるが、一つの円の上を螺旋形のように廻りながら、どんなに思いがけない発見や、飛躍があるとしても、また反対にどんなに挫折や、障害があるとしても、そういうものをすべて包含しつつ、仕事をしてゆくべく出発したのだという気がする。

はじめての着物について語ろうとして、妙な前置きになってしまった。併し私にとって、「秋霞」という着物はまさにそういう着物なのであった。

昔、農家では自家用の織物の残った糸を丹念につないで織ったものだ。それをボロ織とか、屑織とか言った。藍や白や茶や紫などさまざまの短い糸がつながれ、絵具でも出せないふしぎな立体的な抽象絵画のような織物だった。それは時として、秋の夜空に無数の星屑がまたたくようであり、濃紺の空に霞が徘徊するようでもあり、無作意の中にいきいきと自然の一時がとらえられているのであった。

昭和初期、民芸運動をはじめられた柳宗悦先生にお伴をして、母は屢々天神さんや弘法さんで丹波布やそれらのボロ織を買ってきて、大切にしていた。もとより世間ではボロ織はボロ織で何の価値もなかったが、「きれ

いな裂やな、いつかこんなものを織ってほしい」と、後に母は私に言っていた。

木工家の黒田辰秋さんもその頃のお仲間で、ボロ織の大好きな方だった。その頃から約三十年ほど経って、昭和三十四年頃、私をはじめて織物をやり出した時、黒田さんに、「ボロ織を新しく編曲して、現代音楽にしてみませんか」といわれた。もとより私はその時、最も心ひかれていたのは藍のボロ織だったから、やってみようと思った。新しい糸で、新しい意識で。併し編曲はなかなかうまくいかなかった。昔の人は残り糸を惜しんで謙虚に慎しくそれを織ったのだ。美しいものを織ろうとか、芸術とか考えてもいなかった。そんな作意は全くなかった、それ故に美しいのだ。

「求美則不得美、不求美則美矣」

美を求めれば美を得ず、美を求めざれば、美を得る。(白隠禪師著語)³ まさにそうなのだ。併し私には作意がある。残り糸をいとおしむアはもうない。どうすればよいのか、やればやるほど空々しい。糸が輝かない。いきいきしない。もう駄目かもしれない。現代の人間にそれは不可能か、と思った時、無作意を逆に作意に徹底するしかないと思った。美しいものをつくるとか、美を求めないとかいうことも忘れて、私はひたすら杵を動かした。すると何か胸の中がふっと開けて、すると私は糸を繰り出していった。⁴濃紺の夜空に無数の銀白色の線が飛び交い、霞が流れ、霧が立った。織はリズムを得て、音色を呼びこんでゆく。作意も無作意もない。ものが生れてくる。ほとんど一気に織り上げた。衣桁にかけて、その着物を眺めた時、前述の母の言葉だった。なぜ母が咄嗟にそんなことをいったのか、私と作品が最も近く、すれすれの距離にいたことを母の直観で感じたのだろうか。

「秋霞」と名付けた。今思いかえしてみても、あれほど自分と作品が接近したことはなかったかもしれない。その後さまざまの作品を織った。併し、ふしぎなことに、大体十年ぐらいの周期で「秋霞」の周辺にかえって

くる。勿論年をかさねて、幾らか変化してきてはいるだろう。読みも深くなり、技巧も少しはうまくなつてはいるだろう。併し、根本において私はその周辺を離れていない。今も私は何が一番好きかと問われれば、濃紺の夜空に無数にまたたく星屑のような織物、と答えるだろう。

その後、この「秋霞」は論議を呼んだ。

当時民芸展に出品していた私は、柳先生より、この着物が民芸の道からはずれたこと、従つてあなたはもう民芸作家ではないという、半ば破門のような宣告をうけた。私は柳先生の、「工芸の道」の精神より出発し、唯一の師と仰ぐ方からそのような言葉をうけたのだから、衝撃は大きかった。前途まつ暗な気持だった。併し、Y 翻然と胸に湧くのは、もはや民芸と呼ばれる領域の無作意にもどることはできないということだった。柳先生は、そのとき「名なきものの仕事」ということをいわれた。私はあの時の、イ を思い起した。自覚することは避けられない。もう意識なしに仕事はできないのだ。むしろそれが稀薄なことこそ悩むべきではないか。私はあのポロ織をて 挺にして、新しい織物を、抽象的美意識を導入したのではないだろうか。勿論当時、そんなZ おこがましい考えを持つたわけではない。

四十年近くたった今、来し方かた をふりかえり、時代の推移を思うのである。今はもうあんなことで悩む作家はいないだろう。併しあの当時、山野に放り出されて、一匹狼になった気がした私が必死で考えたことだった。思いつきり、自分のやりたいことをするのだと心に言いきかせた。併し、そこにも多くの、問題が待ちかまえていた。伝統という重苦しい枠、手仕事という窮屈な世界、それらの中で自分に枷な をはめずに自由に仕事をするとは至難な道だった。

(志村ふくみ「はじめての着物」より)

(注)

1 民芸運動——一九二六年に柳宗悦を中心提唱された生活文化運動のこと。名も無き職人の手から生み出された日常の生活道具を「民芸(民衆的工芸)」と名付けた。

2 天神さんや弘法さん——京都の北野天満宮と東寺のことで、それぞれ縁日に開かれる市をいう。

3 白隠禅師著語——白隠禅師は江戸中期の禅僧。著語は禅の教えに対する自己の宗教的理解を示した短い批評のことばをいう。

4 杼——織機の部品の一つで、経糸の間に緯糸を通す操作に用いる。

5 衣桁——着物などをかけておく家具。

*問題作成上の都合により、本文の一部に手を加えてある。

問一 二重傍線部X、Zについて、その意味として最も適切なものを、次の各群の中からそれぞれ一つずつ選びなさい。

14 X「曲折のある」

- ① こみいった含みがある
- ② 皮肉な側面がある
- ③ 一筋縄ではいかない
- ④ 広く多岐にわたる

15 Y「翻然と」

- ① 困難にくじけずに
- ② 因習に逆らって
- ③ きりりと勇ましく
- ④ 急に心を改めて

16 Z「おこがましい」

- ① ばかりでいて誤った
- ② 立派でしっかりした
- ③ 凶々しくなまいきな
- ④ やましくて気がひける

問二 空欄ア・イに補う表現として最も適切なものを、次の各群の中からそれぞれ一つずつ選びなさい。

17 ア ① 根気強さ ② 博愛精神

③ 美の意識 ④ 謙虚な心

18 イ ① 白隠禅師の言葉の意味 ② 美を求める心の痛み

③ 作意と無作意の内的葛藤 ④ 無意識に陥った挫折

問三 傍線部1「四十年近く経ってみてやはりそのことを思う」とあるが、「そのこと」とはどのようなことか、その説明として最も適切なものを、次の中から一つ選びなさい。

19

① 人間には一生の間にできる仕事の範囲は限られているもの

だということ。

② 創作において出発となる作品がその後の方向を定めるもの

だということ。

③ 努力をして技術を磨いても同じ作品は二度と作れないもの

だということ。

④ いつまでも無心のまま創作を続けるのは苦勞が伴うもの

だということ。

問四

傍線部2「ボロ織を新しく編曲して、現代音楽にしてみませんか」とあるが、どのようなことを述べているのか、その説明として最も適切なものを、次の中から一つ選びなさい。

20

① 農家の主婦が織った民芸にすぎないボロ織を、芸術に高めてほしいということ。

② ボロ織を現代の感性で捉えて、その模造品を作れないもの

だろうかということ。

③ ボロ織を現代の織物として、自分の美意識で織ってみたら

どうかということ。

④ 昔のボロ織の伝統を受け継いで、現代の織物にその技術を

活かそうということ。

問五 傍線部3「まさにそうなのだ」とあるが、その内容として最も適切

なものを、次の中から一つ選びなさい。

21

- ① 美しいものを作るという覚悟があるからこそ美しいものができる、それがなければ美しくなりようがない。
- ② 美しさを手に入れようと努力するほど真の美から遠ざかり、何も努力しなければ自然に美は手に入るものだ。
- ③ 美を求める心が物に美しさを生じさせるのであり、意図せず美しいものができるということはあり得ない。
- ④ 美しいものを作ろうと思うと美しいものはできず、そのよくなことを思わなければ美しいものができる。

問六 傍線部4「濃紺の夜空に無数の銀白色の線が飛び交い、霞が流れ、

霧が立った」とあるが、どのようなことを表しているのか、その説明として最も適切なものを、次の中から一つ選びなさい。

22

- ① 進むべき道がわからずに布を織るうちに、濃紺の夜空に星が輝いたようにひらめきが起こり、民芸作家として生きる決意をしたということ。
- ② うまくいかずに工夫を重ねるうちに、濃紺の夜空にきらきらと星が輝いている様子を描いた、華やかで緻密な織りの布が出来上がったこと。
- ③ 夢中で織るうちに迷いがふっ切れて、濃紺色の地に銀白色の霞や霧が現れているような、生き生きとした美しい布が織り上げられていったこと。
- ④ 深夜にひとりで悩みながら懸命に布を織るうちに疲れ果てて、無数の銀白色の糸による霞や霧が現れたような錯覚を起こしたということ。

問七 傍線部5「半ば破門のような宣告をうけた」とあるが、なぜそう

なったのか、その説明として最も適切なものを、次の中から一つ選びなさい。

23

- ① 「秋霞」は作意から生まれた意識的な作品で、民芸から逸脱したと判断されたから。
- ② 「秋霞」はボロ織をアレンジしたに過ぎない、志の低い作品と見なされたから。
- ③ 「秋霞」が論議を呼ぶほど評判になり、師の教えはもう必要ではなくなったから。
- ④ 「秋霞」と作品名を勝手に付けたことで、「名なきものの仕事」でなくなったから。

問八 傍線部6「今はもうあんなことで悩む作家はいないだろう」と、筆者が思うのはなぜか、その説明として最も適切なものを、次の中から

一つ選びなさい。

24

- ① 素人があるがままに何かを作り出すような機会が、現代では失われてしまったと感じているから。
- ② 時代の流れで、物作りに作家の美意識を投影するのは当たり前のことになったと考えているから。
- ③ 時代とともに民芸の伝統が廃れていき、個人の技術が重んじられるようになったと考えているから。
- ④ 現代の物作りは機械による大量生産で、手作りゆえの悩みの種が消えてしまったと感じているから。

問九 筆者にとって「秋霞」とはどのような作品だと考えられるか、本文

から読み取れる内容に合致するものを、次の中から一つ選びなさい。

25

- ① 自問自答しながら織り上げた、人生における最高傑作といえる自信のある作品。
- ② 尊敬する師から離れるきっかけを作ってしまった、浅はかな自分を象徴する作品。
- ③ ボロ織をまねて作って失敗したが、母に褒められた思い出がよみがえる大切な作品。
- ④ 悩み苦しみながら自分のやるべきことを見つけた、作家としての原点となる作品。

Ⅲ 次の文章を読み、後の問いに答えなさい。

天の河^(注1)うき木にのれるわれなれやありしにもあらず世はなりにけり

これは、昔^(注2)、采女^(注3)なりける人を、たぐひなくおぼしけり。例ならぬ事ありて、さとにいでたりける程に、忘れさせ給ひにけり。心地^(注4)よろしくなりて、いつしかと、参りたりけるに、昔にも似ず見えければ、うらめしと思ひて、まかりいでて、たてまつりける歌なり。本文^(注5)なり。漢武帝の時に、

張養^(注6)といへる人を召して、「天の河の、みなかみ尋ねゆきければ、見も知らぬ所に、

行きてみれば、常^(注7)に見る人にはあらぬさましたるもの、機^(注8)をあまたたて

て、布を織りけり。また、知らぬ翁^(注9)ありて、牛をひかへて、立てり。「こ

れは、天の河といふ所なり。この人々は、たなばたひこほしといへる人々

なり。さては、我は、いかなる人ぞ」と、問ひければ、「みづからは、張

養といへる人なり。宣旨^(注10)ありて、河のみなかみ、尋ねてきたるなり」と、

答ふれば、「これこそ、河のみなかみよ」といひて、「今は帰^(注11)ね」といひ

ければ、帰^(注12)りにけり。さて、参りたりければ、「尋ね得たりや」と、問は

せ給ひければ、「尋ねたりつれば、たなばたひこほしなど、牛をひかへ、

たなばたは機を織りて、これなむ、河のみなもと、と申しつれば、それよ

り帰り参りたる」と、(X)ける。所のさまの、ありしにもあらず、
変りたりければ、^Aそのよしを聞きて、かく詠めるなり。この歌を、⁴みか
ど御覽^(注13)じて、あはれとやおぼしけむ、もとのやうに、かた時もたちさらず
思召^(注14)しけり。その後、いくばくも経ずして、うせ給ひにけり。塚のうちに、
をさめたてまつりける時に、この采女、生きながらこもりにけり。その
御陵^(注15)を、いけごめの御陵とて、薬師寺の西に、いくばくものかであり。ま
ことにや、張養^(注16)帰り参らざるさきに、天文^(注17)の者の参りて、七月七日に、
「今日、天の河のほとりに、知らぬ星いできたり」と(Y)ければ、
あやしびおぼしけるに、この事を聞こし召してこそ、^Bまことに尋ねいきた

りけると、おぼしめしけり。

〔俊頼髓脳〕より

(注) 1 うき木——浮き木。いかだのこと。

2 采女——天皇に奉仕した後宮の女官。

3 本文なり——ここでは「この歌の典拠は次のことである」とい

う意。

4 天文の者——天文・気象に関する現象を観察し、吉凶を占う役

目の者。

*問題作成上の都合により、本文の一部に手を加えてある。

問一 傍線部1～4の解釈として最も適切なものを、次の各群の中からそ

れぞれ一つずつ選びなさい。

26

1 「ありしにもあらず世はなりにけり」

① 前とはまったく違った関係になつてしまったよ

② 昔のことがわからない世の中になりそうだよ

③ 前世とはまったく関係ない世の中になつてしまったよ

④ 生前にはあり得なかつた関係になつたことだよ

27

2 「いつしかと、参りたりけるに」

① いつかきつとと期待して、参内したところ

② いつのまにか、参内してしまつたときに

③ 心待ちにして早く、参内したのに

④ 少しでも早く、参内したかたのに

28

3 「常に見る人にはあらぬさましたるものの」

- ① いつも見る人とは限らないような者が
 ② いつも見ている人ではないというもの
 ③ いつも見る人とは異なる様子をしている者が
 ④ いつも見る人ではない様子をしているけれども

29

4 「みかど御覧じて、あはれとやおぼしけむ」

- ① 帝にご覧にいらしても、かわいそうとは思われなかった
 だろう
 ② 帝にご覧にいらしたら、心動かされる思いをなさった
 だろう
 ③ 帝にご覧になって、情趣があるとお思いになる
 だろうか
 ④ 帝にご覧になって、哀れとお思いになった
 だろうか

問二

波線部の助動詞 a 「ぬ」・ b 「なり」・ c 「ね」・ d 「に」について、文法的意味として正しい組み合わせになっているものを、次の中から一つ選びなさい。

30

- ① a 完了 b 伝聞 c 打消 d 断定
 ② a 完了 b 断定 c 完了 d 断定
 ③ a 打消 b 伝聞 c 打消 d 完了
 ④ a 打消 b 断定 c 完了 d 完了

問三

空欄 X・Y には同じ敬語が入るが、最も適切なものを、次の中から一つ選びなさい。

31

- ① 申し ② 奏し ③ のたまひ ④ きこしめし

問四

傍線部 A 「そのよしを聞きて、かく詠めるなり」は、采女の詠んだ「天の河」の歌についての筆者の解説にあたるが、「そのよし」の具体的内容として最も適切なものを、次の中から一つ選びなさい。

32

- ① 張騫が天の河の上流を調べてこいという武帝の命に従い、忠誠心から勇気を出して前人未踏の地を探検したという挿話。
 ② 天の河の上流を知りたいという武帝の願いを聞いて張騫が行き着いた所は、人々が平和に暮らす理想郷であったという寓話。
 ③ 天の河の上流を調べるといふ任務を終えて張騫が帰った武帝の宮廷では、張騫が忘れられた存在になっていたという史実。
 ④ 張騫が武帝の命により派遣された天の河の上流は見知らぬ世界で、張騫のいた世界とはまるで違っていたという故事。

問五

傍線部 B 「まことに尋ねいきたりけると、おぼしめしけり」とあるが、武帝は天文の者の報告をどのように理解したということか、その内容として最も適切なものを、次の中から一つ選びなさい。

33

- ① 天の河のそばに出現した未知の星は、そこを訪ねた張騫本人であった。
 ② 天の河のほとりに七月七日に出現した星は、張騫の会った翁である。
 ③ 七月七日に出会うという織姫と彦星の伝説は、本当にあった話である。
 ④ 天の河で発見された新しい星は、帝を追って死んだ采女にちがいない。

問六 本文の内容と合致するものを、次の中から一つ選びなさい。

34

- ① 帝は采女が病気になって里帰りしている間に崩御して葉師寺の西に埋葬された。
- ② 張鸞は天の河上流で見聞きしたことを天文の者に報告したが武帝は不審に思った。
- ③ 采女は帝に忘れられて宮中を退出したが歌をきっかけにもとのように寵愛された。
- ④ 張鸞と采女は宮廷で帝に仕え浮き木に乗った経験があるという共通点があった。

問七 出典の『俊頼髓脳』は平安時代の歌論書であるが、平安時代に成立

35

した歌集を、次の中から一つ選びなさい。

- ① 金槐和歌集 ② 後撰和歌集
- ③ 新古今和歌集 ④ 万葉集

国語の問題はここまでです